



医療

プレゼント

中日新聞プラス

9月のアルツハイマー月間に合わせて、認知症介護の情報を発信

「家族で考えよう！介護のこと」特集 協賛社提供の「介護のヒント」冊子に730件の応募

9月はアルツハイマー月間 **笑顔で介護をするために、大切なのは「頑張りすぎない」。**

安藤和津さん

自分を見失う介護は、開きつづける。大切なものは「頑張りすぎない」。

「介護のヒント」冊子に730件の応募

協賛社提供の「介護のヒント」冊子に730件の応募

社会の高齢化とともに増加の一途をたどる認知症患者数。2025年には高齢者の5人に1人が認知症という社会がやってくるとも言われており、認知症やその介護は避けて通れない問題となっています。

中日新聞では9月の「世界アルツハイマー月間」に合わせて、認知症介護について家族で考えるきっかけとなるような特集紙面を企画。実母の介護を20年間続けられたエッセイストの安藤和津さんにインタビューし、壮絶な認知症介護の経験や、「頑張りすぎない介護」の重要性についてお話を伺いました。

また、知っておきたい介護の基礎知識を掲載した冊子『介護のヒント』（協賛社のベネッセスタイルケア提供）を読者プレゼントにしてハガキと中日新聞プラスプレゼントコーナーで応募者を募ったところ700件を超える応募があり、改めて介護への関心の高さを実感することとなりました。

名古屋本社 広告三部 末永 響子・仲家 祐未

ベネッセの有料老人ホーム 愛知県に17ホーム

認知症ケアの第一歩は、その方の「心の声」を探ること。

10/28(土) 10:00-11:30 「認知症の治療とケアの最新情報」

10/5(木)~11/2(木) 各日10:00-18:00 「新築内覧会」開催

0120-17-1165

冊子「介護のヒント」に応募した人の声 (プレゼント応募者対象のアンケートより抜粋)

- 同居の義父の介護がスタートしたが、何もかも初めてでわからないことだらけ。認知症が一番不安。(女性・40代)
- まったくわかっていないので、最初の一步として読んでみたい。(男性・50代)
- これから私たちも高齢となり誰かの手を借りなければならぬと思うが、その予備知識によい冊子だと思う。(男性・60代)
- 介護について何もわからないので、この冊子をきっかけにして勉強したい。(女性・60代)

